

<b>Title</b>	東アジアの平和と民主主義：北朝鮮問題への地域協力体制：課題と展望実施結果：アンケート集計結果の概要(総合研究所News：聖学院大学国際学術シンポジウム)
<b>Author(s)</b>	聖学院大学総合研究所
<b>Citation</b>	聖学院大学総合研究所 Newsletter, Vol.21-No.5, 2012.3：47-50
<b>URL</b>	<a href="http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/reps/modules/xoonips/detail.php?item_id=3869">http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/reps/modules/xoonips/detail.php?item_id=3869</a>
<b>Rights</b>	



聖学院学術情報発信システム：SERVE

SEigakuin Repository and academic archiVE

聖学院大学国際学術シンポジウム  
東アジアの平和と民主主義  
北朝鮮問題への地域協力体制：課題と展望  
実施結果—アンケート集計結果の概要—

北朝鮮の金正日総書記の死去によって東アジア情勢は激動含みの局面に入った。3代世襲の金正恩政権は核保有に固執して「先軍政治」を続けるのか、あるいは改革開放に踏み出すのか。「強盛国家」をめざすその進路が注目される。地域安定のためには日米韓の緊密な連携と中口の協力が不可欠で、6者協議の再開は緊要である。北朝鮮への影響力を強める中国。経済支援で接近するロシア。他方、軍事的な緊張も抱える韓国。拉致問題で国交交渉が止まった日本。核拡散防止が至上の米国。関係国で指導者交代も相次ぐ今年、領土や資源、歴史問題などを巡ってその立場には対立やずれが目立つ。北朝鮮を軟着陸に導くための地域協力の課題や展望を専門家が討論する。

日時 2012年2月25日(土) 13:30~18:00  
会場 女子聖学院クローソンホール  
主催 聖学院大学大学院・聖学院大学総合研究所  
助成：国際交流基金 後援：朝日新聞社

【プログラム】

講演

「東アジアの安定と日本の役割」

李鍾元(立教大学教授)

「米国の北朝鮮政策と地域安全保障」

ヤン・C・キム(米ジョージワシントン大学

名誉教授)

基調報告

「北朝鮮の現状と南北関係」

康仁徳(極東問題研究所理事)

「中国の北朝鮮政策」

朱建榮(東洋学園大学教授)

報告

「日朝関係と国交正常化の展望」

遠藤哲也(元日朝国交正常化交渉担当大使)

「北朝鮮経済、中朝経済協力、朝口経済関係」

三村光弘(環日本海経済研究所調査研究部部长、主任研究員)

「北朝鮮問題と日米韓連携」

渡辺勉(朝日新聞国際報道部長)

コメント

「北朝鮮軍の現状」

宮本悟(聖学院大学総合研究所准教授)

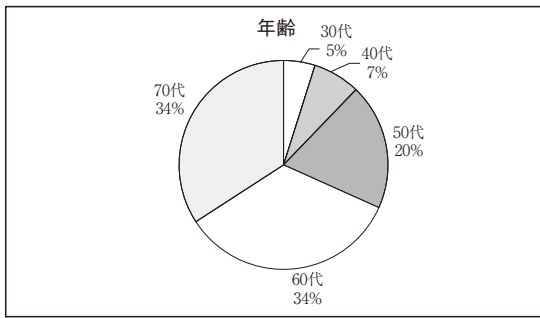
質疑応答、ディスカッション

パネリスト同士の議論の後、会場参加者との  
まとめ・提言、閉会宣言

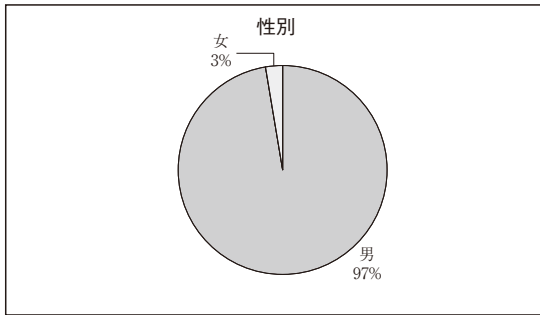
コーディネーター 小田川興(聖学院大学総合研究所特命教授、元朝日新聞編集委員)

【結果の概要】

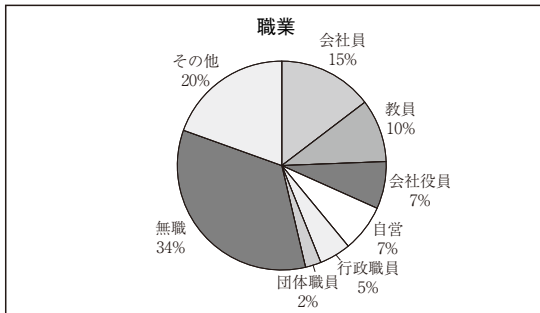
- ・参加者は182名。内、アンケート回答者41名。
- ・講演について「良い」が82%、基調講演について「良い」が80%、報告は「良い」77%、コメント「良い」79%と高い評価を得た。質疑応答は「良い」が58%となった。
- ・「参考になった」「勉強になった」「これからも続けてほしい」「時間が少ない」など。



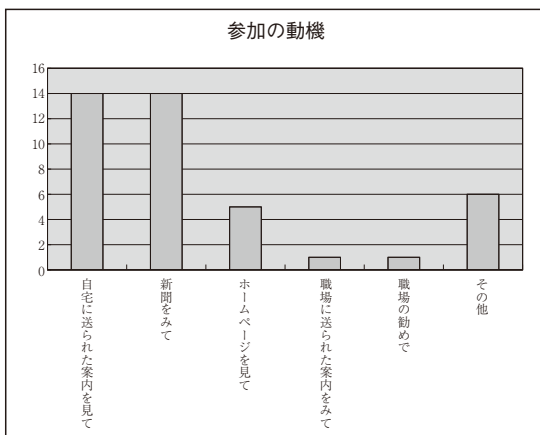
\* 回答者の年齢は、70代と60代がそれぞれ34%で全体の2/3を占めた。



\* 性別は男性が97%と大多数を占めた。

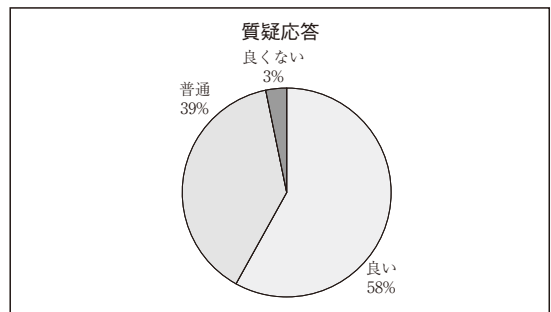
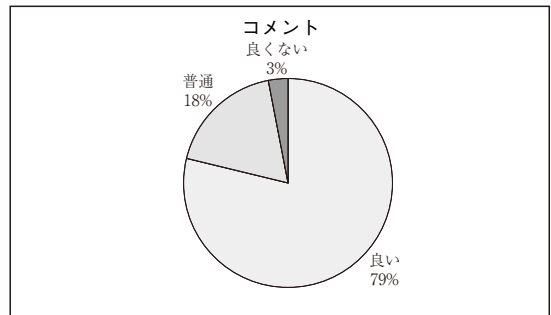
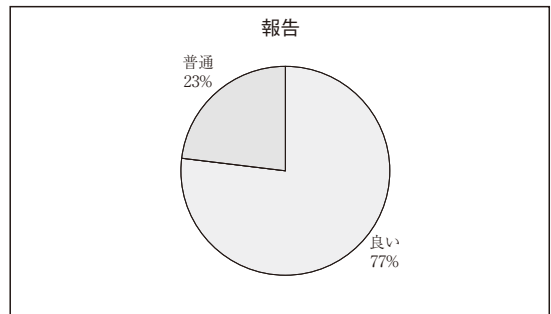
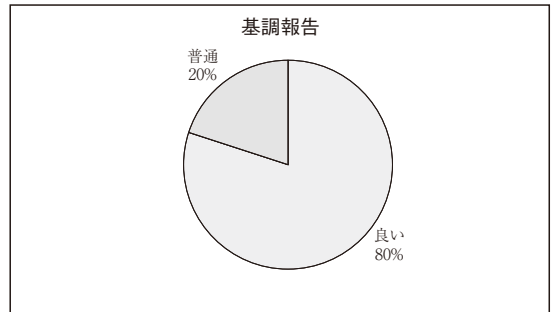
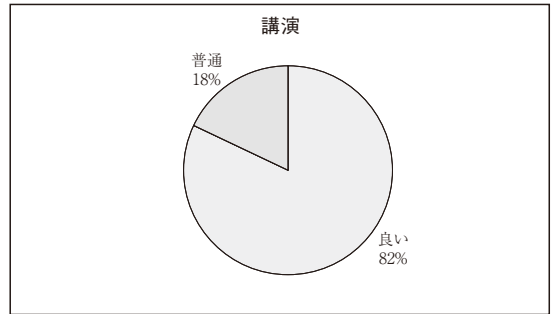


\* 会社員が最も多く、ついで教員となった。  
その他職業としては「団体役員」「アルバイト」など。



\* 「自宅に送られた案内を見て」と「新聞（朝日

新聞)を見て」が最も多かった。



## 自由意見

- ・米軍再編見直しに関連した普天間飛行場の移設問題が最大の争点になっています。沖縄駐在の米海兵隊が北朝鮮の核開発や中国海軍の進出にも対応しうる要素を備えているのかどうかを知りたいと思いました。また、日朝間の拉致問題と戦後補償問題を同時に解決しうる方途はないものかと思えます。
- ・遠藤元大使の慰安婦問題に対する意見が今の日本の標準的な考えだと思えます。日本の限界です。全てが戦争責任or総括していない、出来ない日本人。名古屋市長、東京都知事発言につながります。
- ・ヤン・C・キム先生の6者協議に変えての6カ国の外相の協議、その中での2ヶ国、3ヶ国、4ヶ国による協議は大変参考になりました。拉致問題の解決なしには国交正常化はないとすると、一步も進めないと思えます。まず、国交正常化のための交渉を何としても進める中で様々な問題の解決の糸口が見えてくると思えます。
- ・所要があり、講演と基調報告だけ拝聴し、会場を失礼しました。緊迫した世界情勢の中で、とりわけ東アジア周辺国の立ち位置、課題などが伝わってきました。難しい課題が目前にたくさん迫ってきますが、今後の貴大学、貴研究所の発展、ご活躍を祈ります。本日はありがとうございました。
- ・李先生の講演はバランスがとれ、最も参考になりました。ヤン・C・キム先生、康仁徳先生の報告は一方的、保守的の発言が目立った。質疑応



立教大学教授 李鍾元氏



ジョージ・ワシントン大学名誉教授 ヤン・C・キム氏

- 答は文書によるとあるが、参加者の発言、質問など自由に話し合う時間もあればと思います。シンポジウムをこれからも続けてください。参考になることが多かったです。さらにレベルをあげてください。
- ・はじめてこのテーマのお話を聞きました。とても勉強になりました。戦後の問題が継続しており、その解決と東アジアの安保、平和、経済、文化、政治面等々で、安定していく必要性を強く感じています。ヨーロッパを見習いながら、相互不信が消えていきますように。
  - ・質疑応答について各パネリストの方の意見、非常に参考になりました。  
6ヶ国協議、棚上げについての質問に対するヤン・C・キム先生と李先生の本音と考え方に対して参考になりました。  
締めめの言葉的内容—康仁徳先生非常によかった。  
司会者はすばらしい運営をされたと思います。関係者の皆様に感謝します。
  - ・確かに日本の外交はアメリカ追従で、東アジアとの外交問題は情報が極めて少なく、歴史認識を含めて理解が薄い。こういった試みが数多く開催されることを希望する。
  - ・一年後に今日の検討課題を検証しませんか？  
NHKから、ヒロシマ・ナガサキの「原爆投下」を知りつつ阻止しなかったのは何故か！をやりませんか？
  - ・ダイナミックに動く東アジア情勢がよく理解でき、勉強になった。



後半はシンポジウム形式で意見交換が行われた。

- ・日本の世論はなかなか友好を進める方向にないことが気になる所である。
- ・各氏の主張レポートが配布されている点が高く、後ほど振り返りに役立ちます。時間内でポイントをお話していただければとの感想です。パネリストのポイント、的を得た取りまとめ不足。コーディネーターの仕切り方への不満。多くの質問へのパネリストの発言を聞かせてほしかった。時流のテーマのシンポジウム開催ありがとうございました。
- ・南京は一方的な状況（態）報告は無かったと考えている。従軍慰安婦？戦争がすべて悪いのであって、軍隊、兵隊（人間）が悪いのではない。取り上げるべきではない。
- ・ヤン・C・キム氏のコメントは長すぎる。司会者はもっと遠慮なく調整して他のパネリストの発言を引き出すべき。時間の使い方にもっと工夫があつて然るべき。
- ・来年は長い時間をとって、午前、午後でやって下さい。短く感じました。
- ・来年も続けてください。
- ・マイクの件今回は大満足です。
- ・お茶などを飲める場所を用意してください。
- ・イス、テーブルの一体型席だと喜ばしい（テーブルが欲しい）。プロジェクターなどのPCの活用も考慮して欲しい。